

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100090		
法人名	株式会社 ヴァントーズ		
事業所名	グループホーム ヴィエント		
所在地	栃木県矢板市片岡1174-2		
自己評価作成日	2020年12月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	2021年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」ご自分のペースで自分らしくできることを継続していただけるよう支援しています。また、家庭的な生活を安心して送っていただけるよう寄り添う支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域とのつきあいを大切にしており、夏祭りや地域交流カフェを開催し、工作や歌、踊り等の多くのボランティアが来所している。さらに、週5回の昼食用おかず作りの依頼、食堂からの出前、消防訓練には自治会の協力で住民の参加等、日常的に交流を行なっている。今年度はコロナの影響で地域との交流は自粛になり、馴染みの人に会えず、外出や外食にも行けず、利用者はストレスを感じる毎日だったが、利用者が気分転換ができて楽しんでもらえるよう、工作や塗り絵、事業所内での夏祭りや運動会、感染対策をしてドライブ、おやつを一緒に作ったり、出前をとったりと、職員は工夫と努力をしている。又、昔ながらの季節の行事～1月では居間からの初日の出、初詣(今年は中止)、三日とろろ、七草粥、鏡開き、とんぼ玉作り等～があり、月毎季節毎に職員と一緒にいろいろな行事イベントを楽しんでいる。「接遇のマナー」「身体拘束の廃止」「認知症ケアについて」等毎月テーマを決めて職員研修を実施し、「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」という理念を共有して、利用者一人ひとりが自分らしく生活できるよう理念の実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、ゆっくり一緒に楽しみながら、寄り添い、ご自分のペースで安心した生活を送れるように支援しています。	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」を理念とし、施設長は職員に、利用者の支援をする時には理念に基づいて行動するようにと話している。職員は入浴時に利用者とゆっくり一緒に話をしている時等、理念を実践していると感じている。利用者が自分のペースで食事をしたり、休みたい時に自室でゆっくり過ごせるような支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年見学していた、さつき展に行けなくなり、地域の方の好意で施設に飾って頂き、ご利用者様が喜ばれていました。	例年は地域住民と夏祭りを行い、七夕とクリスマスに地域交流カフェを開き、工作や歌や踊りのボランティア等の来所があり、自治会長の呼びかけで消防訓練に地域住民の参加もあって、日常的に地域との交流が行われていた。コロナ禍で地域との交流は自粛になっているが、自治会との関係は運営推進会議への書面参加で継続しており、一時休止となっていた2ヶ月毎の訪問美容室は再開されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、夏祭りをする事で地域との交流を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、紙面開催になっている中で、アンケート用紙により、意見を収集しサービス向上に努めています。	運営推進会議は、年6回、法人の代表、施設長、管理者、介護支援専門員、包括支援センター、市担当者、利用者家族代表、区長、民生委員、地域住民代表の参加で開催されている。ただ、今年度はコロナ禍で書面開催になることもあった。会議の中で「身体拘束等適正化委員会」が行われるほか、施設の現状報告や運営についての意見交換等があり、委員からの提案で居間の湿度計を購入交換した。議事録は来所した人が閲覧できるように用意してある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員として、参加して頂いている他にも支援の相談に乗って頂いています。電話での連絡を取るよう努めています。	運営推進会議に毎回市の担当職員が参加している。利用者の長時間の離設・徘徊の報告や対応を相談して助言を得ている。市からはコロナ感染予防としてマスク、消毒液、グローブの支給を受け、感染者が出て事業所での療養になった場合を想定したエリア分け（ゾーニング）等についての情報提供があった。災害時における福祉避難所に指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修等を入れながら、情報の共有をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	年2回事業所内で研修を行い、欠席者も含め全員がレポートを提出している。運営推進会議と同時開催で年6回、「身体拘束等適正化委員会」が行われ、今年度は事例を提示し話し合っている。入所したての利用者の帰宅願望による徘徊で離脱や未遂が続いたが、職員の定例会議で身体拘束の可否を検討した結果、見守りと寄り添いの支援の強化で現在は落ち着いている例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を行い、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い、又実際に利用しているご利用者様の後見人様と制度について、教えて頂ける機会が持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、不安や疑問点については、その都度対応し説明をするように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの為、電話での対応になってしまったり、運営推進委員、家族代表から、アンケートでの意見要望が聞けるように努めています。	コロナ以前は病院受診の時や毎月の支払いの時を家族と話す機会にしていたが、現在は電話での対応が多くなっている。以前から家族からの意見や要望はなかなか聞けなかったため、利用者や家族の事業所に対する信頼を深めたいと交流の機会を増やす計画を立てたが、コロナの影響で実現できていない。	利用者と家族の事業所に対する信頼を深め、感謝の言葉だけでなく意見や要望も言いやすい関係作りを引き続き進め、さらに家族同士の情報交換の場作りにもなるような取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会議を開催し、職員の意見や提案が発言できる機会を設けています。	年2回の管理者との面談の中で職員の意見や提案を聞くようにし、働き方についての相談もある。毎月の定例会議では業務の見直しや、利用者の支援についての意見が出されている。コロナ禍の中、利用者のストレス解消の為、ドライブに出かけたり、希望を聞いて出前をとったり弁当を買ったりして食事に変化を持たせたり、おやつと一緒に作るレクリエーション等が実行された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に査定を行い、必要に応じて面談を行い、各自の意見を取り入れるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、外部研修等は控えています が、資格取得の為勤務時間等の配慮に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為、外部との交流は控えています が、落ち着いたら、交流の機会を設け、サービスの向上に努めます。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人にお会いし、話をすることで安心して入居できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナの為、何度も会う事を控えています が、電話での聞き取りを何度もすることで、友好的関係を作れるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の話を聞き、必要としているサービスを見極められるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事、やりたい事を見つめながら、生活の中にやりがいや生きがいを 見つけて頂けるように、努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの為、面会が制限されているため、電話での会話の機会を増やすように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為、面会が制限されているため、電話での会話の機会を増やすように努めています。	コロナの為、家族や馴染みの人と直接の面会が制限されたが、電話での会話を増やしたり、手紙を書いてもらったり、窓越しに面会したり利用者がストレスを感じないよう家族と共に支援している。また、コロナの状況をみながら、四季折々の風景を楽しむために行ったことのある場所に出かけてもいる。5年前から訪問美容に来ている地域の人との関係はコロナ禍の中で一時休止させていたが、再開して2ヶ月毎に全員が髪を切ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が、関わりが持てるようにテーブル席を考えたり、職員が間に入る事で、孤立しないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、相談して頂けるような信頼関係作りを努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に希望や意向をその都度、尋ねるようにしていますが、困難な場合は話し合い持つように努めています。	入浴時や職員と2人になった時に食べたい物を聞き取れたり、心配事や他の利用者との関わり方について相談されることもある。聞き取りが困難な場合は家族と話し合うようにしている。アセスメントで「花が好き」と聞き取った利用者の介護計画の中に、「地域での生活が感じられるよう散歩し草花を摘み部屋に飾る」と書かれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に、ご本人様、ご家族様に聞き取りをして、又、ケアの中でもコミュニケーションを取りながら把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を把握し、記録する事で、職員が現状の把握を出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意向、ご本人様に必要なケアについてカンファレンスで話し合い、又ご家族様来所時、電話などでの意向を確認して作成するように努めています。	家族や利用者本人から情報を集め、意向や希望を聞き取りアセスメントシートを作成。必要なケアについて担当者会議を開き介護計画を作成。家族に説明をし確認を取る。以上の手順で介護計画書を確認している。職員はアセスメントシートを利用し情報を共有しケアの確認をしている。毎月の定例会議で利用者の心身状態、受診内容等を確認検討し、状態が変わっていたり、要介護認定の更新時には担当者会議を開き計画の変更を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノート、申し送りノートにその都度記入し、情報を共有し、介護計画の見直しに行かせるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合いを持ち、柔軟に対応するように努め、可能なサービスを実践しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、地域資源活用が出来ていない現状があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を継続しているが、コロナの為、薬のみ場合もあり、現状を手紙で先生に報告をしたり、施設で対応したり、先生と直接話ができるように努めています。	かかりつけ医への受診は家族が付き添うことを基本にしている。家族が付き添えない場合や利用者の状態が心配な時は職員が同行し普段の様子や変化を伝え、かかりつけ医と情報のやり取りをしている。受診に必要な情報としてバイタル表や手紙を家族に渡し、受診結果は申し送りノートや薬ノートに記入して職員全員で情報の共有を図っている。コロナ禍では、家族に薬を取りに行ってもらったり、長期処方をかかりつけ医に頼み、感染予防の為通院回数を減らすよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度ご家族や病院の相談員などに連絡を取りながら、早期対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院後も医療機関との連絡を取り合い連携を図るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療処置、終末期の対応が難しい事を説明していますが、希望に添った支援が出来るようにしています。	家族には入居時に、痰の吸引や経管栄養等の医療ニーズが高くなった場合や食事が摂れなくなる等の利用者の状況によっては対応が難しいと事業所としての方針を伝えている。今までに利用者や家族からの看取りの希望や、事業所で看取りの経験はないが、定期的に職員研修は行っている。	今後、家族や利用者が看取りを希望することを想定して、看取りに関する指針作りや医療連携の整備、職員研修や学習会に取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の研修も行っていますが、又定期的に救命救急の講習会にも参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年近隣の方々にも協力して頂いていましたが、コロナの為、消防署協力のみで、昼夜想定で年二回行っています。	年2回、昼夜想定避難訓練を消防署の協力を得ながら、併設された小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っている。コロナ禍以前は区長、民生委員、近隣の住民にも参加してもらい、外での見守りを依頼していた。避難訓練は詳細に書かれた消防訓練計画やタイムテーブルに基づいて実施され、定例会議で反省会を行い、職員全員で消火・通報・避難訓練を体得している。地震や風水害時のマニュアルも整備されており、災害時の備蓄品は食品3日分と日用品、ストーブ等が準備されている。	各種災害時のマニュアルが整備されている。どの災害時でも計画に沿って昼夜問わず、利用者一人ひとりの状態に応じた避難誘導がスムーズにできるよう、避難訓練結果の検証を行い、反省会と計画の見直しを重ねながら更なる避難訓練の強化に努めてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけや、プライバシーに気を付けて支援しています。	利用者の自尊心を傷つけないように声の大きさに気を付けたり、馴れ合いにならないように丁寧語で話すようにしている。トイレ誘導時や失禁時にはあからさまな介護をすることなく、利用者に安心してもらえるような声かけに努めている。管理者は職員の気になる対応には直接注意を促したり、定例会議では職員同士で話し合う場を持ち、利用者の誇りやプライバシーを損ねない支援を心掛けている。接遇の研修は行われており、参加できなかった職員には資料の感想や実践での気づきを報告書に書いてもらい共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伝えやすい雰囲気作りを心掛け、その都度ご本人様が自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望に添えるように、又ご自分のペースで過ごせるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に好きな服を選んで頂いたり、ご家族に季節に合った服装が出来るように入れ替えの協力して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物が出来なくなっているけれど、食べたい物を聞きながら、献立の中に取り入れるように心がけています。出来る利用者様には積極的に職員と一緒に片付けなど参加して頂けるようにしています。	週5日、昼食のおかずを地元の人に作ってもらう以外は担当職員が献立を立て、買い物や調理はその時の勤務職員が行い家庭的な食事を提供している。利用者の好みや咀嚼力に合わせて柔軟に対応し、職員は利用者のペースに合わせて食事や会話を楽しめる支援をしている。コロナ禍で外食は難しくなったが、四季折々のおやつや行事食を利用者と一緒に作ることもある。利用者の要望に応じて出前やテイクアウトをしたり誕生日にはケーキを手作りする等、職員は「食」を通して利用者の喜びや満足に繋げる機会作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取表を記録して体調管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人様に合った口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握し出来る限りトイレで排泄出来るように支援しています。	排泄表を確認し利用者の排泄パターンやトイレサインを読み取りながら排泄の自立支援を行っている。日中は全員トイレでの排泄ができています。夜間は定期的に声掛けする人やパッドを交換する人、転倒防止で人感センサーや低床ベッドを使用する利用者がいる。職員は定例会議で利用者それぞれの排泄の状態を共有し、一人ひとりの習慣やパターンに応じた個別の排泄支援に努めており、利用者のタイミングに合わせて声かけすることで日中トイレでの排泄につながった事例もある。リハビリパンツやパッドなどは家族に種類を伝えて購入してもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分、運動を心掛け、促すように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回入浴出来るように決めています。ご本人様の希望や、体調に合わせて曜日の変更をしています。	午後の時間に週3回入浴している。利用者の好みの時間や湯加減、毎日入りたい等の希望に応じている。入浴拒否者には、時間をおいて再度声をかけたり、曜日を変えたりして対応している。利用者の体調を見て足浴にしたり、必要に応じて2人で介助することもある。浴槽は家庭用と同じ大きさで、浴槽内に滑り止めマット、出入りに手すり椅子を使い安全面に配慮している。脱衣場は床暖房となっている。重度化した場合、座位を保つことができれば併設された小規模多機能型居宅介護事業所でリフト浴が利用できる。職員は入浴がリラックスできる楽しい時間になるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて自由に過ごして頂けるよう支援に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ノート、申し送りノートを活用し、情報の共有が出来るように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの為、外食は出来ませんが、季節に合わせた行事や、お弁当を取り入れるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は控えているため、レクリエーションで気分転換出来るように努めています。	コロナ禍で個別のドライブや散歩、買い物など日常的な外出が難しくなったが、三密を避けながら花見や紅葉狩り、リンゴ狩りに出かけ、利用者の嬉しそうな笑顔を見ることができた。職員は、利用者が気分転換ができるように、工作や塗り絵をしたり、事業所内で夏祭りや運動会等を企画し、コロナ禍であっても少しでも利用者を楽しんでもらえるように職員が一丸となって工夫し努力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理を出来る方がいないため、職員が管理し、ご家族様に出納帳の確認をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と電話をされたり、友達からの手紙を受け取っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的には換気をして、湿度、温度調整を気を付けている。季節に合った飾りや、イベント写真を直ぐに飾るようにしています。	居間は床暖房で、天井は高く梁が見える明るく開放的な空間になっており、すっきりと片付けられている。壁には職員と一緒に作った工作作品やイベントでの写真が飾られている。ほとんどの利用者は日中居間で、周りの人と談笑したりソファでくつろいだりテレビを見たりそれぞれのペースでゆったりと過ごしている。窓際にある量のスペースは、洗濯物をたたんだり、ひなたぼっこをする場所となっている。こまめに換気や消毒を行い、湿度や室温にも気を配っている。中庭ではビヤガーデンを行い、事業所脇の畑では季節の野菜を栽培し、利用者は各1鉢ずつの花を事業所前で育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方とテーブルを一緒にしたり、ソファや畳に座り過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真を飾ったり、家で使用していた使い慣れた物や好みの物を用意して頂けるように支援しています。	各居室は掃き出し窓があり、エアコンやカーテンが備え付けられており、入り口にはあじさいやもみじ、つつじなどの花の表札がかかっている。利用者は各自でベッドや好みのたんす、衣装ケース、テレビ、加湿器などを持ち込んでおり、家族の写真、利用者の作品が飾られている。衣替えは職員、または利用者も一緒に行い必要な物は家族に伝えている。利用者が居心地よく過ごせるように個別に応じた環境整備に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りに努め、廊下や移動場所に物を置かないようにしています。		